参加
協働

地域の実情に応じた河川の整備

住民参加による川づくり　猿ヶ石川

○猿ヶ石川の紹介

猿ヶ石川は、遠野市、花巻市、北上市を通って流れている河川で、延長約 85km、流域面積約 952km2を有する北上川の支川です。このうち遠野土木センター管内の管理延長は約 32.9km となっています。

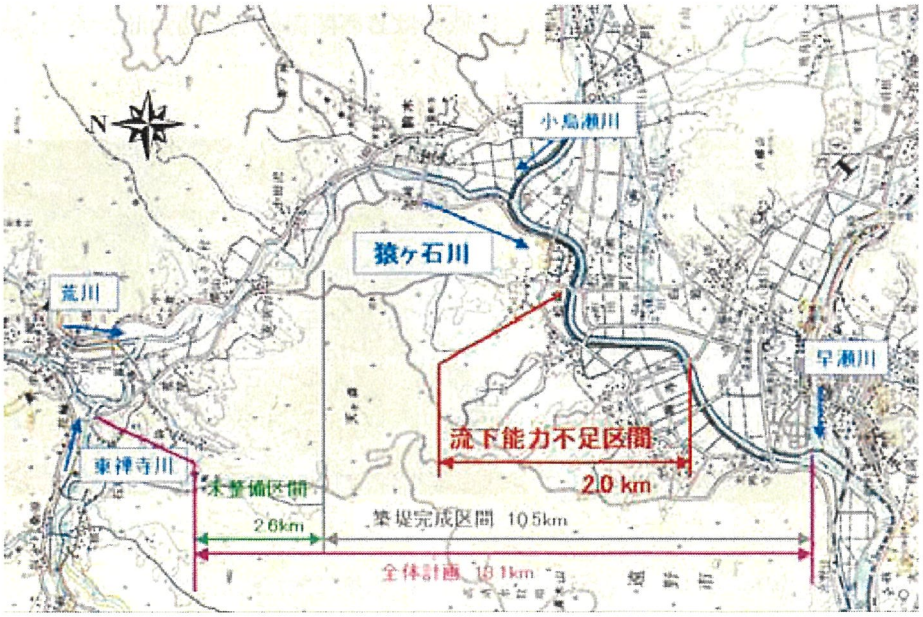
昭和 56 年 8 月の台風 15 号においては、管内の河川のいたるところで氾濫し、浸水家屋数約 750 戸を数える被害が出ています。

○事業概要及び課題

早瀬川合流点から上流部約 13.1km を全体計画とし、このうち築堤（盛土等により堤防を築くこと）が完成している区間は約 10.5km、残り 2.6km が未整備区間となっています。

治水安全度（洪水に対する安全の度合い）の向上はある程度図られてきており、現在は築堤完成区間内において一部流下能力が不足している区間約 2.0km の対策を重点的に行っています。

一方、猿ヶ石川の当該計画区間は、河岸や河床の材料がマサ土（花崗岩が風化したもの）であり、流水の浸食作用を受けやすい状況です。このような浸食の結果生じた土砂は下流に堆積し、更なる流下能力の不足を引き起こす原因となる他、最近の環境への意識の高まりから、生態系への影響を懸念する声が聞かれます。



○猿ヶ石川河川整備懇談会

平成8年7月に県で策定した「いわての川づくりプラン」において、いわての川の望ましい姿の三つの理念が示され、その方策の一つとして、行政と住民とのパートナーシップを進めていくこととなりました。

猿ヶ石川においても事業を進めるにあたり、住民との視点の共有、意見の反映、対話及び情報交換を目的に、平成8年度に「猿ヶ石川河川整備懇談会」を組織しました。最近では事業規模に合わせて会を縮小し「猿ヶ石川河川改修を考える会」と称し、各地区長及び上猿ヶ石川漁業協同組合、遠野市の方々に参加していただいて実施しています。

当会においては、大判図面を囲んだ座談会形式とし、自由で活発な意見を頂いています。
最近の意見等を見てみますと、災害防除に対しては高く評価して頂いていますが、次の課題として、昔の猿ヶ石川がそうであったように、動植物の生態系を含めた河川環境の回復を期待する声が寄せられています。

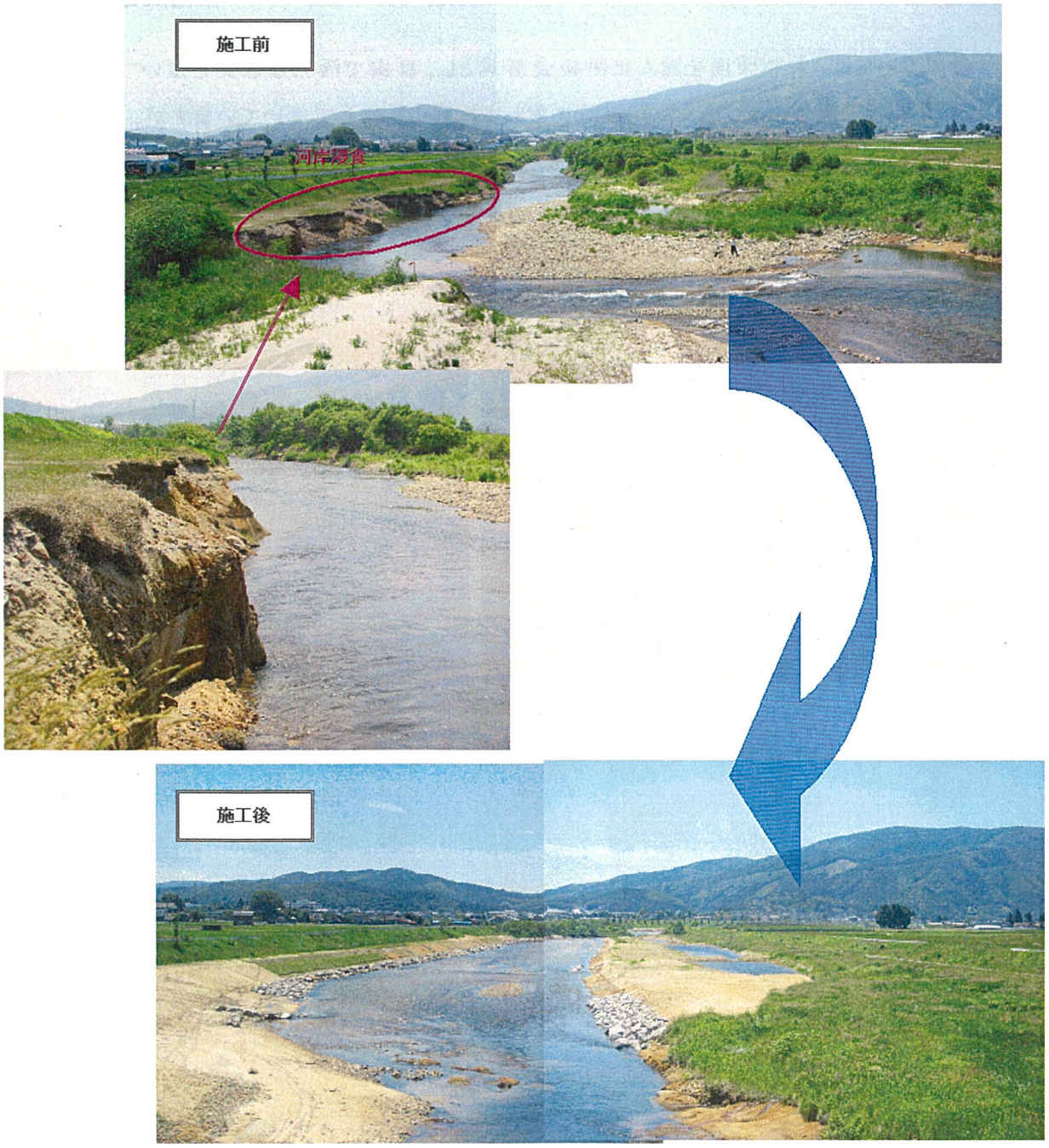
①河床に砂が溜まり魚類の住めない川になってきている。
②昔のようなハマナス、月見草、ホタルのある河川にしたい。
③早瀬川との合流点の土砂を撤去して欲しい（白鳥関係）。
④子供が川で遊べるような河川工事を進めて欲しい。
⑤身体障害者等も川に接することができるように、スロープなどの整備を考えて欲しい。

「安心・安全な暮らし」は評価
新たに「親水性」についての提言が大

○河川整備の方向性

これらの意見を受け、猿ヶ石川河川改修事業においては、河川環境に配慮した手法を採用することとしました。

上述したとおり、当河川においては構成材料がマサ土であることから、河岸浸食等が著しいという課題を抱えています。これらに対処するため、また、景観の保全に努めると同時に、水際の多様性を創出し動植物の生息空間への配慮を行うことを目的とし、自然石を利用しての水制工（出水時に流れの勢いを弱めたり、水の流れの向きを変えたりする施設）や護岸等を施工しています。また、これらに用いる自然石は管内の他工事からの発生材を有効利用しています。



○施工後の評価

これらの手法を採用し施工した箇所においては、住民の方々からは魚の姿が見られるようになってきたとの意見や、景観的にも良くなってきたとの意見を頂いています。

実際、設置した石材の隙間に稚魚も見られ、植生も順調に回復しており、また、河岸浸食の度合いも極端に少なくなってきています。

○おわりに

上記のほか、希少植物の保護や、生息環境創出のためのワンド（河道内にある入り江状となった水域）等の設置も行っています。また、当河川においては自転車道が整備され、地元の方々が気軽に川と触れ合える環境が整っています。

遠野市では、毎年「河川一斉清掃」と題して、住民総出で河川敷の草刈やゴミ拾いが行われ、各地区とも積極的な参加を頂いています。また、この他にも独自に清掃等の活動をする団体が複数あり、河川環境に対する意識の高さが伺える地域の一つです。

今後とも住民参加の機会を大切にし、住民との意思疎通を図りながら事業を進め、地域住民に愛されるような川づくりを目指したいと考えています。

問い合わせ先：
花巻総合支局遠野土木センター℡0198－62－9938